【山崎名誉主宰の俳句】

亡　国

山崎　聰

夕焼けに突き当りたる牛の顔
亡国の石垣蜥蜴這い出でて
ふつうの日のふつうのくらし放屁虫
朝日影釣られて山女石の上
秋は来にけり捨てられて薬包紙
月の砂漠ああいもうとよおとうとよ
蛇穴へもののふの覚悟にも似て
あまつさえ月夜の街の人だかり
生涯のもうすこし先秋の虹
満月をさびしとおもう休暇明け